

川崎市労働資料室だより

NO.16 平成29年春号

春は菜の花から始まりさらに梅から桜、はなみずきへと花いっぱいですね。年度初めていろいろ環境が変わり、疲れたなあって思うときは、物言わぬ花たちを見るだけで心が癒されそうです。

さて、昨冬、川崎市在住の中村史也様からお父様の労働関連蔵書約2千点あまりを労働資料室に寄贈していただきました。ありがとうございました。労働資料室では、「水野 秋（本名 中村育司）文庫」として公開することとし、ただいま登録作業中です。順次一般公開いたしますので、ぜひご活用ください。

「水野 秋文庫」について

寄贈者 中村 史也様からのメッセージ

「水野 秋文庫」は、一人の労働ジャーナリストが、生涯に蒐集した書籍・資料です。約二千冊に及ぶ「文庫」は、労働運動・社会運動を中心に政治・思想・社会から芸術・文化にわたり幅が広く、個人に重きを置いているのが、特徴の一つです。都道府県などの地域的、地縁的屬性に注意しているのも、大きな特徴です。若くして農民運動、政治活動に参加したことから政治的な関心も強く、運動と政治を連関させていました。

職業としてのキャリアは、政治・労働情報誌記者から始まり、労働運動情報誌「新労働通信」（1967年創刊・2009年3956号終刊）を起業して病に倒れるまで、労働ジャーナリストとして全うしました。

60年近く、社会変革の起動力に労働運動を含む人間の生きるための営みを据えて追いつき、身近な労働組合・企業とその周辺をフィールドとしました。

職業柄、あらゆる労働組合・政治組織・社会団体を対象にしましたが、総評・日教組・合化労連・昭和電工・日産労連など特定組織と親密な関係を築きました。それらとの政治的つながりで、社会党との縁がありましたが、共産党関係には執念とも言うべき関心を持ち続けたことが、「文庫」に現れています。

水野秋（本名中村育司）は、1931年東京を出生としながら、母親の郷里岡山県笠岡市で家族と離れて成長した生い立ちもあり、中央と地方、各都道府県の違い、関係性に拘りました。地方紙から探り入手したものは、県別に蒐集し分別と関連を意識していました。岡山県については、上京後も関係・関心を持ち続け、纏まった2つの著書として刊行しました。同様の都道府県ごとの歴史的なものが著される構想を思念していましたが、残せたのは、「新労働通信」に連載した「ふるさとの革新像」だけでした。「新労働通信」は、労働政策・研修機構が多く所蔵していますが、なお調査をしています。

河上肇・森近運平・太田薫をはじめ、特定個人の生き方・思想・著書などに依って受けた影響と執心が蒐集・執筆に現れています。人間・個人に対する特別な思い入れが、活力を突き動かしました。最期まで伝記・自叙伝・追悼集などを探し続け、それらのものが、運動家・政治家などの絡み合い、影響関係を垣間見せています。

15年戦争敗戦後の社会復興・混乱期から農民運動・政治活動の渦中に旧制中学校を中退して身を投じました。その経験、以後ジャーナリストとして並走した中で、“戦後労働運動史”を残すことに使命感を覚えていたようです。その側面史的な現れと特別な思いにより結実したものが「太田薫（上・下）」です。さまざまな政治事件・社会現象にも、関心を向けました。

東京都台東区・荒川区に居住し、倉庫にも蔵書を分け、その圧迫の負担軽減から処分もしましたが、2016年に85歳で亡くなるまで、書籍資料を身近から離せませんでした。未整理のノート・メモ・手帳などが、なお残っています。遺言もなくその扱いを託された長男の中村史也が、川崎市在住であることの縁で、川崎市労働資料室に寄贈先を得ることができました。快く受け入れて戴いた関係者の方々に心よりお礼を申し上げます。



川崎市役所からの感謝状を受け取られる中村史也様（中央）

2016年12月15日



こんな資料を見つけました

川崎市は大正 13 年（1924 年）7 月 1 日、川崎町と大師町、御幸村が合併して市制施行となりました。市域は現在の川崎区西部と幸区東部で人口は 4 万 8394 人です。この「市制記念 川崎誌」は当時、市制施行記念のために編集発行されたもので、川崎市の沿革、名所旧跡、古今にわたり川崎市の発展のために尽力した人々、当時の商工業の状況等が記されています。京浜工業地帯の中核をなす川崎は当時稼働されていた工場をみても分かる通り、その市制始まりの時から「工業都市川崎」をうたっていました。各工場の詳細と合わせて工場の写真も掲載されて興味深い内容となっています。川崎市労働資料室の開架書棚に配架されていますので、興味のある方はぜひご覧ください。



…ご利用者の声から…

今回は毎日のご利用くださっている方にお話を伺いました。

『労働資料室は友だちから紹介されたのがきっかけで利用するようになりました。』

閲覧室では、国家資格試験の勉強をおもにしています。資料室には現在チャレンジ中の資格勉強に役立つパンフレット等多数ありますので、とても参考になります。

資料室のある労働会館は川崎駅からのメイン通り沿い、緑の街路樹がとてもきれいな場所にあります。来るまでの道のりや会館からの景色も楽しみの一つになっています。たいへん静かで、落ち着いた雰囲気のある場所ですので自己啓発のためにも今後とも大いに活用したいと思っています。』



新着図書ご紹介(水野 秋文庫より)

『多摩の流れにときを紡ぐ「近代かわさきの女たち」と「別冊聞き書き集」』

川崎女性史編さん委員会

1990 年 11 月発行

「女性の自立と社会参加がとりわけ求められています。すべては先人の女性たちの苦難の道のりの上に成り立っているもの。今後女性たちが平等で平和な歴史の主人公であるためには、近代川崎の負の歴史を踏まえた上で悠久の時を紡いできた女たちの心を今に引き継ぐことがぜひとも必要ではないでしょうか。

（まえがきより）」明治から終戦までの 78 年間の通史編、川崎に生きてきた 128 人の女性たちの歩みを収録した聞き書き集の 2 冊組です。通史編には市北部地域での仕事や習俗、南部での工業化に伴う工場労働や職業婦人としての活躍、満州事変から終戦までの婦人会の戦争協力や戦時下の生活などがまとめられています。

川崎市労働資料室だより NO.16（平成 29 年春号）

平成 29 年 4 月発行

